

⑮

野崎観音周辺の里山（大東市）

文・写真 劉 岱（野崎観音・里山保全の会）

「野崎まいり」で知られる野崎観音から飯盛城址を含む「野崎の山」の里山を守ろうと、保全活動をしている会です。1996年から活動されていた「野崎・飯盛山の山と緑を保全する会」の活動を引き継ぎ、新しいメンバーで2022年から活動しています。しかし、各地の里山と同じく、荒れるに任せ、樹木の自然遷移が進行し、里山の植生の変化と共に荒廃が進み、自然災害の危機にも瀕しています。

現在、冬には竹林では枯れた竹などの除伐作業を行っています。暗い竹林が明るくなり、春にはタケノコもとれるようになりました。今後は竹を利用したクラフト体験や炭焼きなども検討しています。

また時折、植物、昆虫、鳥などの自然観察ハイキングも開催しています。2023年度生駒山系花屏風活動に参加し、オオシマザクラを植えました。今後は昆虫を増やす取り組みとして、インセクトホテルの制作にも挑戦したいと思っています。このように、野崎観音・里山保全の会は、自然環境の保全だけでなく、地域の文化を未来へ繋ぐ活動を推進しています。



冬に枯れた竹の除伐作業



春にタケノコが取れました

⑯

鶴見緑地 自然体験観察園（大阪市鶴見区）

文・写真 榎元 慶子（大阪市エコボランティア、大阪公立大学大学院）

自然体験観察園は1998年、鶴見緑地内に大阪市環境局が所管する施設としてオープン、2018年3月策定の「大阪市生物多様性戦略」には「大阪市の生物多様性関連施設」として位置付けられました。里山を模した落葉広葉樹に囲まれた棚田、水路やため池、地域の象徴である蓮田や畑のほか、多様な野草が広がる草地や実生の樹木を育てる林など、狭い場所に多様な環境が創生され、維持管理にはボランティアも協力しています。水田5枚のうち1枚は常水田んぼとして、また、かつて水田から花壇に転用された場所を、再び湿地に整備し、多様な生き物がやってくる環境づくりを行ってきました。毎月生き物調査を実施し、時折貴重な生き物も見つかります。生産農家とは異なる、生き物に配慮した栽培方法による田畑での農事体験や、観察園全体を対象にした生物多様性を学ぶ講座のほか、一般の来園者も、都市にはない、また公園の中にありながら里山環境を体験できる場所になっています。



蓮田（右）、畑（中央）、実生林（左）、水路（奥）と、多様な環境のエリアが近接している。(2020.5.16)



早春の棚田の畔に咲くカンサイタンポポ。(2010.4.15)